

会 議 録

1 会議名

令和4年度第3回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

中山間地域農業の維持・振興に向けたワークショップの開催状況と今後の展開について（公開）

【協議事項】

「地域活性化の方向性」の作成について（公開）

3 開催日時

令和4年6月23日（木）午後6時30分から午後7時50分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 坪田 剛（会長）、金森幸雄（副会長）、齊藤徳夫、佐藤寿美子、
佐藤峰生、寺島和枝、平野コトミ、水嶋豊秋（欠席者4名）

・農村振興課中山間地域農業対策室：

飯田室長、松井主任

・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：寺島委員に依頼

議題【報告事項】中山間地域農業の維持・振興に向けたワークショップの開催状況と今後の展開について、担当課へ説明を求める。

【農村振興課中山間地域農業対策室：飯田室長】

- ・挨拶

【農村振興課中山間地域農業対策室：松井主任】

- ・資料に基づき説明

【農村振興課中山間地域農業対策室：飯田室長】

この間、2回の会議を開催させていただいた。3回目は6月28日（火）にこの会場で行いたいと思っている。男女問わず幅広い世代の方から毎回20名を超える参加をいただき、ワークショップ形式で楽しい雰囲気の中で進めている。可能であれば、見学していただきたいと思う。予定としては、10月を目途にビジョンという形でまとめたいと思う。完成したら結果報告に伺いたい。

【坪田会長】

説明に対して意見を求める。

担い手の件だが、人口が減少しているが、どのようにして担い手を探すのか。なかなか難しいのではないか。

【農村振興課中山間地域農業対策室：飯田室長】

今ほど、5つの柱で話をしたが、どの地区に行っても担い手の確保が最重要課題だと捉えている。今できること、将来できることということで、皆さんから、理想の段階で話をさせていただいている。その中でSNSを活用して外部から取り入れる、婚活パーティをして地元の人を育成していく等、いろいろな意見があった。第3回からは、少し理想から現実に移って、いつ、誰が、どうやってやるかの話を進めていきたい。ご心配されている部分については、しっかりと地域の方と掘り下げて話すので、10月にその結果を報告したいと思う。

【坪田会長】

稲作を中心に考えるかと思うが、海を抱え、山間地、冬の天候など諸条件がある。稲作に代わる作物を何か作ることはできないのか。

【農村振興課中山間地域農業対策室：飯田室長】

この話合いの中で、作物についての所得確保といったテーマもある。これについては、耕作放棄地が年々増えてくるというところで、そこを荒らさないために何か作れないか。ただ、人手が少ないので水稲よりも手のかからない作物がないかも探っていきたいと思っている。地域のほうでも山菜や蕎麦など耕作放棄地の観点から新たな作物を見出す、それと併せてそれをブランド化していこうかと、やはり、所得にしていきたいという考えもあるので、この地域に何があるのかも含めて、話を掘り下げていきたいと思っている。

【坪田会長】

他に質疑を求めるがなし。

— 農村振興課中山間地域農業対策室 退室 —

次に【協議事項】「地域活性化の方向性」の作成について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

- ・資料No.2「谷浜・桑取区における「地域活性化の方向性」の作成について（案）」に基づき説明

地域活性化の方向性の作成に向けて、作成例やどのように進めていくか、案を作成した。必ずしも案どおりでなくてもよいので、このような進め方もあると参考にさせていただきたい。

本日は、地域活性化の方向性を作成するにあたり、地域の魅力など意見を出し合っていたきたい。事前送付した【別紙】を基に各委員からお話いただきたい。全委員発言後、出された意見について意見交換をお願いしたい。他の委員の発言を聞いて思ったこと、詳しく聞きたいこと、加えたいもの、まとめられるものなどを話し合っていたきたい。

【坪田会長】

私から進めさせていただく。歴史・文化の項目で、谷浜地域づくり協議会でマップを作った。これに載っている物を1つずつ紐解いていけば、膨大な資料を作成できるのではないか。マップに基づいて検討していくのも1つの案かと思う。長浜に阿比多神社があるが、そこには菅原道真公、いわゆる学問の神様が祀られている。意外と知られていないが、学問の神様の神社があるということを伝え、他地区からも来ていただく。そして、地域の知名度を上げながら活性化していく。

自然については、見たとおりそのまま山・川・海、そして、温泉もある。それぞれ

の自然を活かしたものがたくさんある。春夏秋冬、季節感あふれる地域である。その中でも桑取川という素晴らしい川もあり、春先から釣り人が来ている。ニジマスやヤマメ、秋にはハゼが釣れる。川を利用した釣りもあり、海は海としてある。

観光については、春には長浜の薬師山、城ヶ峰砦、くわどり湯ったり村はカタクリの群生で知られており、山岳関係の本などにも載っている。雪解けになるとカタクリの花を見に来る人もいる。夏は、谷浜海水浴場、また、山にはキャンプ場として活用できるところもある。秋には、山あいの紅葉。自然溢れる紅葉がある。冬は雪景色が素晴らしく、小雪の時でも桑取の奥には、必ず雪が積もっている。何かを利用して初級者コースでよいので、小さなスキー場を開設できれば、人が訪れるのではないかと。

また、米山からの朝日、能登半島に沈む夕日が素晴らしい。今の時期だと蛍。蛍の情報を流すことで、他地区から人が来るのではないかと。

その他については、素晴らしい海があるので、トライアスロンを開催してはどうか。佐渡や他のところで大会があるとたくさんの方が集まってくる。トライアスロンだと、海を泳いで陸に上がってきて、自転車で山に行き、最終的には温泉に入ってゆっくり汗を流すということもできると思う。

また、私が強く思っていることは、観光協会の設立である。3年前に谷浜観光協会が解散したが、今度は、桑取・谷浜の桑谷観光協会を設立すれば、否が応でも歴史・文化・自然・観光が付いてくる。ただ、事務局を立ち上げるのはなかなか難しい部分がある。地域内に団体がたくさんあるので、そういうところから協力いただいて、観光協会のようなものを立ち上げれば、ある程度の活性化が見られるのではないかと。事務局については、今、有間川駅、谷浜駅が無人である。谷浜観光協会がなくなった時に、すぐに二本木に行ってきた。二本木駅の中には、コーヒーコーナーや飲み物を飲ませてくれたりする。こちらとは雲泥の差があった。向こうは非常に経済的に恵まれている。近くに工場があり、競馬の場外馬券場があった関係で駅も素晴らしいものになっている。二本木駅はスイッチバックが全国的に有名なので、芸能人も来たりして、こちらとは比較にならない部分もあるかもしれないが、名立駅は、無人の駅を使いながら、冬には通学する学生にストーブを焚いて暖を提供し、新聞を販わしている。有間川、谷浜駅を事務局等々に当てながらそういった活動をするのもよいのではないかと考えている。

もう一つは、これも谷浜に絡むが、以前、義の塩があった。登録商標を取っているが、谷浜観光協会が終わってから、義の塩も作成していない。謙信公祭の際に、必ず谷浜の

議の塩を献上していたが、それも今はないような状況なので、桑取・谷浜観光協会が立ち上がることによって、経済力も伴えば、そういった上杉謙信の逸話と絡めた義の塩を復活できるのではないかと。

【金森副会長】

今ほど坪田会長が言われたように、ガイドマップをせっかく作っているのに、きちんと活用していかないと、今まで補助金で取り組んできたものが、活かしきれないのではないかと。

私が感じたのは、歴史・文化の項目には例として、里神楽、小正月行事等が書かれている。これは、今後もぜひ活かしていかなくてはいけないと思う。この他に何かあるのかと言われたときに、有間川の盆行事で盆踊りがある。子ども屋台も手づくりながらも、ずっと続けてきた経緯がある。コロナ禍で、いずれも2年間中断している。今年は何とかしたいとは思っているが、少子化で子どもそのものが非常に少ないため、当然、親の数も少なくなっている。子ども会から先頭に立って取り組んでもらっているが、これも町内だけではやはり続けられない。お盆の帰省で子どもや孫を連れてきた人達から応援していただき、今まで行事を続けてきたという経緯がある。外から人が集まらなければ、その事業の実施も難しいという状況にある。自分の地域の魅力をもっと知らしめて、この時期には実家に帰ろうかと、外からの人が積極的に集まってくれるようなものを何かもう一度復活させたいという思いでいる。

自然の項目の中で、子どもの頃は、田んぼの用水でドジョウを取ったり、メダカや水生昆虫を捕まえたり、蛍も飛んでいたが、今は耕作放棄地がどんどん増えて、葎が茂っている中で、そういうものも見られなくなってきた。ぜひ、私の子どもの頃の思い出のメダカや蛍が復活できるような取組みをしていきたい。それには、まず、用水の整備だろうと思う。耕作地がなくなって、用水の傷みがかなり進んでいる。もう原形を留めていないようなところもある。そういうところをコツコツと一つずつ整備していく必要があるのではないかと考えている。

観光については、たにはま公園がある。設備的にはドッグランと遊具が置いてある他に何も無い広場が魅力の一つで、子どもを思い切り走らせることができる。手入れが大変であるが、それだけでは少し寂しく感じる。防災公園としての機能も維持するということになれば、木は植えられない。土地も構えない。そうするとできるのは花壇ぐらいかなと思う。春早くにはこういう花、夏にはこういう花、秋にはこういう花と四季咲き

の花で飾るのはどうだろうか。

また、創造の森やクヌギの森、夕日の見える丘と緩斜面があちこちにある。短い距離なので、冬は、子どもたちのスキー遊びにはほとんど危険性がなく、安全に遊べるのではないかと思っている。

地域のつながりは、私の町内は、月2回、お年寄り中心のサロン活動がある。公民館事業も絡めながらの活動が続いている。かみえちご山里ファン倶楽部からも協力いただいている。こういう団体との連携を継続しながら、活動をつなげていきたいと思っている。

【齊藤委員】

毎回、城ヶ峰砦の提案がなされている。それは、やはり続けていっていただきたい。現在の担い手はいるかもしれないが、若い世代にも受け継いでいき、長いスパンで活動いただければと感じている。

自然については、小・中学校で鮭等の野外授業がある。この地域も子どもたちが少なくなってきたが、学校での鮭の野外体験は他の学校では見られないことなので、これも続けていっていただきたいと思う。

観光では、これから海水浴シーズンで多少でも長浜が賑わっている。それとくわどり湯ったり村との絡みを模索しても、時間、距離、道路幅がネックになっていると感じている。私は、ドライブする時に行きと帰りは違う道を通るようにしている。だから、国道8号から、湯ったり村まで行き、温泉に入って、それから、また同じ道に戻るのではなく、中ノ俣を抜ける道を整備し、景観を見ながら、高田方面へ出る。そういうこともできるのではないかと思っている。

【佐藤寿美子委員】

コロナ禍で色々な行事や活動が減ってしまったこともあり、まず、地域の人たちとの触れ合い、つながりが大切だと思っている。

また、県道沿いに自宅があるので、土日に車の通りがあるが、朝、桑取の奥へあがって行き、お昼には帰っていく。くわどり湯ったり村には寄られていない気がする。そうではなくて、湯ったり村でお風呂に入ったり、ご飯を食べたりして戻ってくるという流れを作れるような環境があればよいのではないか。湯ったり村との話し合の場がないので、意見を言うことができないが、そういう場を作っていただければよいのではないか。湯ったり村のPRの仕方があまり上手ではないのではないかと感じている。

【佐藤峰生委員】

この数年、地域活動支援事業で取り組んできたことが、ようやく具体的に芽を出してきたと感じることがある。先ほど、ガイドマップの話が出たが、ガイドマップの効果が具体的に出ていると思う。いつも各取り組み項目を関連付けるという話をさせてもらっているが、ようやく、そういうことを実施しないといけない場面にきたと感じている。

歴史・文化の項目では、茶屋ケ原・鍋ケ浦・吉浦には旧加賀街道の跡地がある。コロナの関係で、昨年まで中止になっていたが、今年は潮陵中学校の課外事業で加賀街道を歩くことを企画して、町内会長が案内役をして歩いてきた。他にも地域外から少人数のグループの人たちが来ている。おそらくガイドマップを見て来ているのだと思うが、鍋ケ浦には三十三観音像がある。ガイドマップにも載っているし、案内看板も付けていただいた。町内会長が案内したのだが、数人の人たちが来て参拝して、ついでに神社もお参りしようかという話になり、参拝したとのことである。そういった取り組みが少しずつ芽を出している。それをどうやって花を開かせていくか。ガイドマップを見て参拝に来て、加賀街道を歩いて隣の吉浦、茶屋ケ原に行って乳母嶽神社をお参りするというコースに、毎週、数人のグループが訪れれば、かなりの人数になる。それを受け入れる地元の対応も当然必要になる。定期的に来る人達がいるということになれば、町内でも受け入れをどうするかとかいう話になると思う。

その例として、観光のところで、谷浜・桑取地区では、一つの町内に必ず神社がある。朱印帳を作って、神社巡りをして5つ貯まったら、くわどり湯ったり村の入浴券を進呈する。そういうことで、訪れた人がこの地域を回ることになる。

その他の項目として、久比岐自転車道も地域の宝だと思う。休みの日にたくさんの人たちがサイクリングをしている。あの人たちを自転車道からどうやって桑取谷へ引き込むか。自転車道の途中にマップを置いて、来てもらうなど考えないといけない。

それと、たにはま公園は週末になると、たくさんの人たちが子どもを連れて来る。たにはま公園が終着ではなくて、たにはま公園を通過してもらって、どうやってこの地域を回ってもらうかということだと思う。それこそ、たにはま公園で「イベントをしているので、皆さん神社に回って下さい」とか、「有間川漁港で釣り大会をしているので、回って下さい」等、PR活動をしてはどうか。

【寺島委員】

今、御朱印帳という話があったが、私は個人的に神社めぐりが大好きで、いろいろな

ところの御朱印をいただくのが、マイブームになっている。SNSでいろいろな情報を見て、友人と神社巡りをしている。私も谷浜に住むようになって大分経つが、本当にまだまだ自分でも知らないところがたくさんあると思う。阿比多神社が学問の神様を祀っていると初めて知った。

また、テレビで谷浜駅がCMに使われていたことがあった。SNSで上越のよいところとして、何枚か写真が上がっていたが、有間川駅は夕日が綺麗な駅として載っていた。よいところをどのように発信していけばよいかという点で、若者はSNSを使用しているので、そういう発信の仕方もあるのかなと思う。

【平野委員】

長浜に住んでいるが、長浜はやはり阿比多神社だと思っている。神社を階段で上まで登って行くのは大変だが、元気な人なら登れるので、ぜひ、皆さんに知っていただきたいと思う。あと、海側なので綺麗な夕日が見られることだと思う。

【水嶋委員】

自然がたくさんあるので、山菜や鮎、鮭などを加工して、ここだけの特産品にすることを考えていったらどうか。その他に、今、ほとんどもう使わなくなった山の道を自転車で走っている人がいるので、久比岐自転車道の他に山のほうも自転車道として整備してもらってもよいのではないか。

【坪田会長】

いろいろな意見が出た。今度は、それを誰が先導していくのかという話になる。町内会長がやるのか、誰かが実行委員会を作ってやるのか、方法もいろいろあると思う。今日は第1回目の意見交換なので、欠席された4人の考えも次回お聞きしたいと思う。やはり、聞いていると神社の関係が多い。地域に相当の数の神社がある。そういう神社参りの企画を誰がどうするのかという具体的な話になると、難しく意気消沈してしまう。なかなか実行に移すのは難しいものであるが、いろいろ意見を出していただいてありがたい。

それぞれの委員から貴重な意見出された。それに対して、意見等を求める。

水嶋委員が言われた鮭の加工も、今年から作らなくなったが、潮陵中学校の生徒が鮭の燻製を作っていた。やはり、地域を挙げて誰かがそういうことを行うという旗を上げないことには、なかなかできないものがたくさんあると思う。だから、このように一つ一つ言えば、本当にたくさんあるが、先導する人がいないとなかなか厳しいものがある

と思う。誰かが提案すれば、この地域性からして賛同する人が集まる可能性は十分にあると思う。佐藤寿美子委員が言われたくわどり湯ったり村と意見交換したいという話については、私も湯ったり村の役員をしているので、申し伝えながら、提案をしていきたいと思う。

【佐藤寿美子委員】

情報としてお知らせするが、まだ、桑取と谷浜の写真を撮ってあるという段階だが、仲間でインスタグラム始めた。

【千田主任】

次回、本日欠席した人からの意見を伺いたいと思う。

【坪田会長】

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主任】

日程については、会長と調整させていただき、決まり次第、皆さんにご案内したい。

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp 1

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。